



カツオ

中西部太平洋

主な漁業と漁期
日本近海
竿釣り、まき網：春から秋
熱帯域
まき網：周年

生態

日本では、刺身・たたきによる生食と鰹節、世界では缶詰の原料として利用されています。

●分布・回遊

熱帯～温帯水域の表面水温が概ね15℃以上の海域に広く分布しています。

日本の近海から沖合を含む温帯域には春から秋にかけて小型個体が北上来遊してきます。主な来遊経路は①黒潮沿い、②紀南・伊豆諸島沿い、③伊豆諸島東沖、④東沖ルート などがあると考えられています。

●産卵期・産卵場

産卵期は熱帯、亜熱帯域では周年とされ、表面水温24℃以上の海域で広く行われています。一方、日本近海では夏期に限定されることが明らかとなっています。

●成長・成熟

成長は早く、生後1.5ヶ月後には体長10cmを超え、6ヶ月で約30cmに成長します。その後、1歳で体長44cm、2歳で62cmに達するとされています。寿命は6歳以上と考えられています。

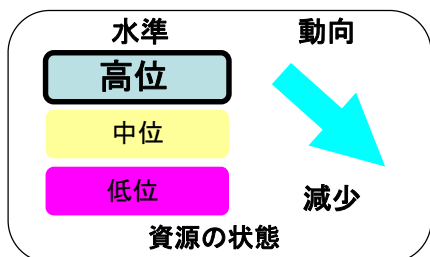
成熟体長は生息域で異なり、熱帯域で50.1cm、亜熱帯域で53.7cm、温帯域で55.9cmです。



竿釣り船の水揚げ

漁業・資源動向

【資源】



・近年、産卵親魚量は減少傾向を示しています。加入量は1980年代から2000年頃まで増加した後に横ばいで推移しています。また、漁獲死亡係数は成魚・未成魚ともに増加傾向で2020年に最大に達しています。

・これらのことから、3年に一度実施される最新の資源評価(2022年)では、資源水準は高位、動向は減少と評価されました。また、資源は適度に利用されているが、産卵親魚量は過去最低値付近にあり、漁獲圧は増加傾向にあることから留意が必要であるとされています。

《国の資源評価へのリンクはこちら》

要約 https://kokushi.fra.go.jp/R04/R04_30_SKJ-WCPO.pdf

詳細 https://kokushi.fra.go.jp/R04/R04_30S_SKJ-WCPO.pdf

【漁業】

・2007年以降、中西部太平洋全体では年間150～205万トン、日本では年間19～31万トンの漁獲量で推移しています(図上)。また、静岡県への水揚量は、8～14万トンで推移しています(図下)。

・主にまき網や竿釣りで漁獲されています。

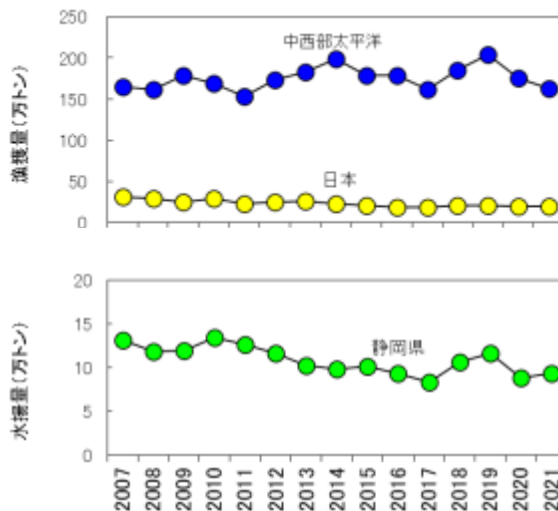


図 中西部太平洋と日本のカツオ漁獲量の推移(上)と静岡県のカツオ水揚量の推移(下)

担当者の一言：静岡県は、遠洋から沿岸まで様々なカツオが水揚げされ、水揚量は日本一です。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科 054-627-1817